

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015

3月

No.117

特集 P2・3

“地域福祉”を“まちづくり”とともに
第5回宍粟市地域福祉のつどい



ひ孫と
いっしょ

波賀町 上野 シリーズ116

やました たづ
山下 田鶴さん(90歳)

こはる
○小晴ちゃん(6ヶ月)

やました しょうご みちよ
山下 尚吾さん・倫代さん

■長女

“地域福祉”を“まちづくり”とともに

第5回宍粟市地域福祉のつどい



「まちづくりの中に、少しの福祉的な支えをどのように入れていくのか…」本当に大切な視点です(宍粟防災センター)
写真左:藤井博志 神戸学院大学教授

2月15日(日)、宍粟防災センターにおいて、「第5回宍粟市地域福祉のつどい」を開催し、自治会長や福祉委員、民生委員、一般市民の方など約200人が参加されました。

このつどいは、社協の使命である地域福祉の推進について市民のみなさんと考えることを目的に、2年に1回開催しているものです。

今回のテーマは、「福祉でつながる支えあいの地域(まちづくり)」。

今号の特集は、今回開催した「地域福祉のつどい」について報告します。

4年間の取り組みから 見えてきたもの

平成23年に策定した「宍粟市社協第2次地域福祉推進計画(つながりふくしプラン)」を推進し4年が経過します。

基調報告では、地域支援課主任波多野が「つながりふくしプラン4年間の取り組みから見えてきたもの」と題して、本会が進めてきた地域福祉を高める取り組み「**つながりのカタチ**」について報告しました。

本会では、市民のみなさんが実践されている見守り活動やボランティア活動などの応援を行ってき



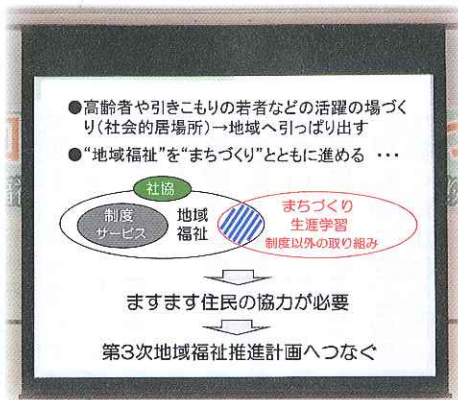
オープニングは、mokumoco(モクモコ 宍粟市吹奏楽団 木管アンサンブル)による演奏

ましたが、この4年間で少しずつですがその成果がカタチとなってきました。

その反面、制度の狭間の課題や、深刻化する生活・福祉課題など、つながりふくしプランでは対応できない課題が出てきたことも事実です。

社協の目線で地域と しっかり向き合う

また、平成27年度から本格施行される「生活困窮者自立支援法」や「介護保険制度の改正」など、福祉関係諸制度の各分野において大きな改革が行われる中で、生活



今後ますます住民の協力が必要で

困窮や社会的孤立・排除といった問題を、地域福祉の課題として目をそらさず、社協の目線で向き合っていくことをお話ししました。

そして、高齢者や引きこもりの若者などの居場所づくりや、**地域福祉**を**“まちづくり”**とともに進めていくことなど、重点的に取り組むべき課題について、本会の第3次地域福祉推進計画につないでいくことを確認しました。

自分の地域の課題と向き合う3つの実践

フォーラムでは、神戸学院大学の藤井博志教授をコーディネーターに、自分の地域の課題と向き合いながら、まちづくりを進めている宍粟市内の3つの取り組みを紹介しました。

パネラー

いきいきファーム

(生柄集落営農組合)

事務局 段林 繁さん



○平成24年7月に組織化。地域にある棚田を活かした都市住民との交流事業や耕作放棄田での朝倉山椒の植栽・収穫など、地域の高齢者パワーを活かした事業を展開している。

○生涯現役。自治会の土地に関する思いも強く、仕事、役割そのものが介護予防につながっている。後継者や今後の展開が一番の課題である。

土万ふれあいの館

館長 助光 和雄さん



○地域の存続と活性化をめざし平成17年4月に建設。販売や収益を優先せず、地域住民の交流と地域の活性化を大切にしながら、孤立しない社会参加の拠点を運営している。

○地域を元気にするための拠点を、地域から生み出すことができた。これからも地域の課題と真正面から向き合い、動ける間は人任せにせず、自分たちで守っていききたい。

鷹巣活性化委員会

委員長 金本秀夫さん

事務局 藤原 誠さん



○平成24年4月に結成。開校した千種東小学校の空校舎を住民活動や宿泊施設として地元で運営することで、自治会の活性化、都市との交流や地域づくりにつなげている。

○地域の活性化に必要なものは心と時間を少しずつ持ち寄ること。できる、できないではなく、どうしたらできるかを委員会と考えていきたい。

○地域の活性化に必要なものは心と時間を少しずつ持ち寄ること。できる、できないではなく、どうしたらできるかを委員会と考えていきたい。

地域福祉をまちづくりとともに進める

どの発表も素晴らしい取り組みで、「これからは、多機能な共同拠点が必要。そこに地域福祉の視点を取り入れる事が大切」と、藤井教授にまとめていただきました。

基調報告やフォーラムからも**“地域福祉”**を**“まちづくり”**とともに進めていくことが、宍粟市で今後さらに必要となっていくことが再確認できました。

今までの経験を活かし、地域住民とのつながりや信頼を構築してきた社協として、その役割は今後ますます重要となつてきます。

(地域支援課 波多野好則)

第5回宍粟市地域福祉のつどい 宣言

- 1.「自治会福祉連絡会」を中心に、福祉でつながる支え合いの地域(まち)づくりを進めましょう。
- 2.気になる人を支える「見守り」や「ご近所ボランティア活動」を広げましょう。
- 3.見えてきたつながりのカタチをさらに明確なものにしていくため、市民、ボランティア、NPO団体、福祉・介護・医療関係者が共に手をつなぎましょう。
- 4.赤い羽根共同募金や善意銀行預託金など、地域福祉を進める活動財源をみんなで創り出しましょう。

平成27年2月15日
第5回宍粟市地域福祉のつどい

最後に「つどい宣言」を多数の拍手で採択しました

や

まさき

みんなにやさしい地域って?

山崎小学校4年生が「福祉学習」

2月18日(水)、山崎小学校の4年生64人が、「総合的な学習の時間」を活用し福祉学習を行いました。

この日は、車いすの介助をする時に気をつけることや、普段の学校生活の中で障がいになるものを体験を通して学びました。

その後、

自分たちの身の回りで工夫されているバリア

フリーやユニバーサルデザインを本会職員が説明し『みんなにやさしいまち』についていっしょに考えました。

児童からは「困っている人を見かけたらお手伝いしたい」「相手の気持ちを考えないといけない」などの感想が多く聞かれ、思いや



「普段は気にならなかったけど…」ちょっとした段差でも一苦労。どうすれば安全に上られるか考えながら挑戦(山崎小学校)

りの心の大切さに気づいてくれた様子。

今回の学びや気づきは、今後の授業で理解を深める学習に活かされることが期待されます。

社協では、こうした福祉学習を通して誰もが安心して暮らせるみんなにやさしい「まち」地域について考える機会が増えるよう応援していきます。

(山崎支部 森井裕矢)

い

ちのみや

15年続く地域サロン

あったか

河原田あけび会

今年で15年目を迎えるあけび会。河原田老人クラブの女性会員が毎月集まり活動されています。

同会では、地域のこどもたちとのむかし遊びや「はりま自立の家」でのボランティア活動など、自治会域を越えた取り組みをされています。

2月12日(木)、事前にチャリンでの呼びかけを行い13人が公民館に集まりました。この日は、合唱から始まり、男性会員へ贈るバレンタインのプレゼントを作りました。

その後は、お茶を飲みながら最近の出来事や次回の活動など話題は尽きず、楽しくにぎやかな場となりました。

参加者からは、「みんなで集まると元気になるね」「あけび会があるから河原田に住んでいて良かったと思う」との声が聞かれました。

「私はお節介でね。でも、少しでも地域のためになればと思



チョコレートを詰めて定例会にて男性へプレゼント♡(河原田公民館)

今後もしも介護予防や生きがいづくりにとどまらず、地域とつながる「あけび会」を続けていきたいですね。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)



読者の感想より

「みんなが集まる“交流の場”」サロン活動を友人が初めてやったとの事。写真も載っておりとても楽しそうな姿が見られました。やはり人と人の集まりはとても大事だと思います。私も頑張ろうと思う一日でした。(山崎町 女性)

こんにちは!
社協です!!

は
が

みんなが集うサロンへ

日見谷自治会

日見谷自治会は今年度から2年間、本会の小地域福祉活動モデル地区の指定を受けています。すでに取り組んでいるふれあい喫茶に加え、みんながつどえるサロンに取り組み、もうと福祉連絡会を中心に準備を進めてきました。

福祉委員によってチラシや

放送で呼び掛けがおこなわれ、2月22日(日)、日見谷公民館で初めて行われたふれあいサロンには35世帯のうち約60人が足を運びました。

1階ではお茶を飲みながらおしゃべりに花がさぎ、2階に設けられたゲームコーナーでは、子どもから大人まで、一緒になってゲームで遊ぶなど交流を図りました。

また、今後にかつ工夫として、サロンに関するアンケートを行い「はじめての事でわから



「こうやって投げると」貸出備品のカラーリングで遊び、にぎやかなサロンに(日見谷公民館)

ないことばかり。住民一人ひとりの声を大事に、みんなが参加しやすいようにできれば」と自治会長の中尾俊彦さん。
今後、みんなが集う機会を少しでも増やし、サロンが地域の拠点づくりにつながるよう、お手伝いしていきます。

(波賀支部 平有利菜)

ち
くさ

寄って話をする居場所

西山あすなろ学級

2月19日(木)、西山公民館で今月のあすなろ学級が行われました。

あすなろ学級は生涯学習の一環として15年以上活動が続いており、当日は5人が参加しました。

今回は、本会のケアマネジャーが公民館を訪れ、介護保険や緊急医療情報キットなどの説明を行いました。

「救急安心カードは、家族の分も書いて入れたいほうがええな」「次の会には保健師さんに書き方を教えてもらおう」など参加者から熱心な声が聞かれました。

「年寄りには明日のこととはわからへん。寄ることが大事なんや。み



今日は寒いので、ストーブを囲んでやりましょうか(西山公民館)

んなの顔を見たら安心できる」と世話役の福元貞子さんは言われます。
寄って話をする場として、あすなろ学級がこれからも続いていくよう願っています。

(千種支部 小原志のぶ)

読者の
感想より

社協広報紙は、毎回拝見させて頂いています。社協活動は本当に幅広く、しかも、細かい所まで手の届く活動をされていること感動しています。特に高齢で介護を受けている私ら福祉の有りがたさを一層深く感じています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。(波賀町 女性)

1年間ボランティア ありがとう!

市内の高校生が、年間を通じてさまざまなボランティア活動に取り組みました。活動を通じて学んだことを今後の学生生活に生かしてくださいね。新年度もみなさんの活躍を期待しています。

千種高校



ボランティア部が姫路市の特別支援学級児童の雪遊びのお手伝い(ちくさ高原)



伊和高校

ボランティア部「青い鳥」では、ロータスクーポンを収集整理し、一宮子育て支援センターへボールをプレゼント



山崎高校

生活創造科一年生が配食サービスの利用者へお弁当を届けました

アロママッサージで リラックス!!



マッサージ中も話が弾みます

2月18日(水)
宍粟防災センター

アロマセラピーを通して活動している『ソーシャルアロマグループくすの木』が、花みずきの会(在宅介護者の会)で参加者にオイルマッサージを行いました。

「気持ちええな、温かくなってきたわ」と参加者の声に、代表の石田初美さんは「このマッサージを覚えていろんな人をリラックスさせてあげて下さいね」と話されました。

「いろんな人にアロマを知ってもらいたい。希望があれば呼んで下さいね」と意欲的なみなさん。

今後もみなさんの活動を応援しています。

(山崎支部 横山洋子)

ボランティア
センター日誌

手芸品を小学校へプレゼント



野原小学校にて

2月26日(木)
手芸ボランティア
上野しあわせ会

鶴の鉛筆立て



結成して35年の手芸ボランティアグループ「上野しあわせ会」の皆さんが、野原小学校児童22人へ「鶴の鉛筆立て」をプレゼントされました。

メンバー5人が昨年夏からそれぞれ準備を開始。広告などを小さく切ったパーツを作り、そのパーツを320個組み合わせると鶴1羽が完成します。

手間暇かけたプレゼントは、児童一人ひとりの大切な思い出となったことでしょう。

(波賀支部 坂本幸子)